



2023年8月25日

各位

会社名 株式会社 TSON
(コード番号 3456 TOKYO PRO Market)
代表者名 代表取締役 加藤 冬樹
問合せ先 取締役経営管理部長 加藤 隆弘
T E L : 052-589-1441
U R L : <https://www.tson.co.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は2022年8月10日に公表いたしました2023年6月期通期業績予想を、最近の業績動向を踏まえ下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正(2022年7月1日～ 2023年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,043	279	206	134	287.18
今回発表予想 (B)	4,862	123	28	10	22.44
(増減額 (B-A))	△181	△156	△178	△124	—
増減率 (%)	△3.6	△55.7	△86.2	△92.2	—
(参考) 前期実績 (2022年6月)	3,565	60	19	15	33.10

2. 修正の理由

【売上高】

● L F 事業

不動産ファンド事業

【売上】 予算 2,933百万円 見通し 2,301百万円

前期末から東海3県（愛知県・岐阜県・三重県）においては、不動産ファンドに適した用地仕入れを特に厳選したため、ファンド用地の仕入れ数が計画を下回りました。それに伴い、組成して売上可能なファンドを十分そろえることができず、売上は計画を下回る見通しです。

分譲戸建事業

【売上】 予算 2,079百万円 見通し 2,521百万円

分譲戸建事業は、定期借地権付住宅の販売戸数が、予算33棟に対し実績47棟と大きく進展しました。それにより売上も伸び、計画を上回る見込みです。

LF事業全体

【営業利益】 予算 549百万円 見通し 344百万円

販管費に関して、不動産ファンド事業においては、投資家に対して不動産ファンドの周知や出資を促すことについて様々な施策を打ち出した結果、広告宣伝費や販売促進費の大幅な増大を招きました。また、分譲戸建事業においても販管費は、多少予算超過いたしました。

その結果、LF事業全体においては、不動産ファンド事業の未達成部分を分譲戸建事業でカバーしきれなかったため、営業利益は計画を下回り344百万円になる見通しです。

●テック事業

【売上】 予算 30百万円 見通し 39百万円

テック事業は当事業年度において、2022年12月に公益社団法人企業情報化協会（IT協会）よりIT奨励賞（トランスフォーメーション領域）を受賞するなどして、不動産AI「勝率一番」の認知度が高まったため、顧客数が増加し販売額が増大する見込みです。

【営業利益】 予算 ▲25百万円 見通し ▲6百万円

売上が計画を上回ったことと業務改善による販管費抑制によって、営業利益は予算を大きく上回る見通しです。

●各セグメントに配分していない全社費用(販管費)

予算 245百万円 見通し 214百万円

●全社

【経常利益】

営業利益の減少によるものが▲155百万円、営業外収益によるもの17百万円、営業外費用超過によるものが▲40百万円となり、経常利益は予算206百万円に対し28百万円になる見通しです。

【当期純利益】

予算134百万円に対し、10百万円に修正いたします。法人税等につきましては、16百万円見込んでおります。

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上